

穴生学舎かわら版

第5号
穴生学舎
新聞編集委員会囃班

図書室紹介

もっと使って下さい

図書室は平成6年9月、学舎開校に併せてボランティア活動としてスタートしました。16年目を迎えた現在、蔵書は5千冊に及びますが、一方パソコンの普及など社会の状況変化や活字離れなどで、図書室の利用率は減少傾向にあります。

図書は棚別に健康・福祉、文芸作品、エッセイ、趣味・料理などジャンルも幅広く、また月刊誌も「1枚の絵」「文春」など7種類を常設しています。

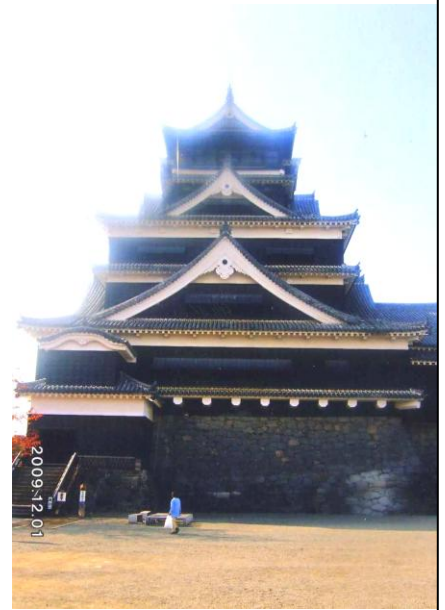
図書ボランティア

代表 黒部 孝

運営に当たっては、研修生や地域の方々に蔵書を寄贈していただき、これを含めて「ブックプラザ」を開催、その収益金で新刊書を購入するような仕組みをとっています。

研修生からは新刊購入希望表を集め、ボランティア通信を発行して図書室情報を提供するなど常に工夫をこらし、多くの方々に愛され、親しまれる場となるよう努力しております。一層のご愛用をお願いいたします。

平成22年2月9日発行



修学旅行先の熊本城（写真入門コース岐部六彌さん撮影）

多岐に亘るドームでのゲーム

和田 勝範

健康スポーツコースに在籍して、ドームにも随分お世話になりました。スポーツ的要素のほか、ゲーム感覚の強い種目が数多くあります。曰く、ユニカール・シャフルボード・風船バレー・ペタンク・ドッジビー・ファミリーバドミントン、それにグラウンドゴルフも。そしてこれ等の設備・用具が数十人分準備されている事に驚きます。さすが穴生ドームの観。尤もそれ等の活用度はあまり高くないのではないかと何か利用度upの方策はないものかと考える次第です。



コーラス紹介

1 男声合唱ジョイントコンサート

日時：2月21日（日）13時～

場所：ウェルとばた 中ホール

出演者：若松男声合唱団・新日鐵八幡合唱団・
中津メールハーモニー

入場料：800円

女声コーラスは数多くありますが、男声合唱は大変稀有な存在です。当学舎コーラスコースの



OBも10名近く若松で活動しています。深みのある男声ハーモニーを是非聴いて下さい。

2 穴生学舎混声合唱団「つばさ」

12年間の活動実績がありますが、学舎内での組織的位置付けが不安定な状況にあります。（21年度より同好会）

日時：5月16日（日）14時30分～

場所：響ホール

第13回定期演奏会をオーケストラとの共演で開催。

俳句

岐部 六彌 (写真入門)
春近し こむろかぶりや 冬ぼたん

竹原 英作 (健康スポーツ)
妻亡くて 硯返らぬ 冬(たまたま)の山

嵐去り 星の破片を(かけら) 探しけり

田んぼ二景

松原 和美 (健康スポーツ)

筑紫路に 水車の歌と 青田波

杖をつき のぞむ故郷の 稲の秋

川柳

宿泊研修の夜

光成 岑泰 (健康スポーツ)

小倉来て 穴生学舎の 和をさと

友の顔 タげのあとの 椅子ならべ

藤村 生雄 (健康スポーツ)

学び舎に 黄昏知らぬ 人集う

今日も又 昔の美女の 賑やかに

三谷 さきえ (歴史に学ぶ)

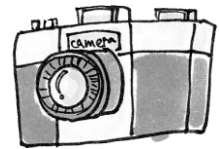
落日よ もう身構える ことはない

陽が昇る なくしたものは 数えまい

「私の失敗談」

古閑 哲朗 (写真入門)

私は写真に関して、若い頃から今迄数多くの失敗を繰り返してきたのでお話しします。20代の頃、5月の



山行時にフィルムを買い忘れ、山小屋が営業してる所もあるので購入出来ると思っていたが小屋に置いてなくて、この山行の写真が一枚もなかった事。

2度目は30代の頃の山行時、カメラを家に忘れ駅に集合、その時に「古閑さんカメラは？」で気付き慌てて駅前のカメラ店に走った事を思い出します。

3度目は2年前の結婚式、シャツターを押しても切れない。カメラが壊れたと思ったが式も終わりに近づいた頃、バッテリーを忘れて来た事を思い出し「あくあ大失敗」。

皆さんはこんな失敗はないと思います。皆さんはこんな失敗はないと思います。準備と確認を十分に行って、私の様な失敗はしないで下さい。写真コースに入ってから失敗は今の所ありません。

「おみくじ」

漆村 美智子 (生活情報)

友達からの賀状の中に「加齢に負けず、華麗に過ごしませう」というのがあった。忍び寄る老いには逆らえぬが、気持ちにブレーキをかけることはできるはずだ。私の場合、外見はさておき、くよくよ悩んで心の老いに拍車をかけてきた。

三日早朝、鷹見神社へ初詣で行き、引いたおみくじが大吉だった。思わず、ウツシッシーと初笑い、決して信心深い方ではないが、へこまない、しなやかな心で対処できたら、おみくじ効果は更に大である。

「思いたちて」

高戸 直幸 (生活情報)

思いたちて

はやる心は

うきうきと

まだ見ぬ星に

思いをはせて

秋の旅路の

遠き道



「黒と光」久保 節子 (健康管理)

黒、黒、私は今、黒のキャンパスの中に居る。身動きもせずじっとして

「この黒の向こうは何？」すると黒の隙間から、瑠璃色のゆるりとした風が入ってくる。

その風はやがて翼を広げ、私を包み、煌めく光の世界へと私を誘う

“そう”

光の波動は今日の始まりの時

—お詫びと訂正—

穴生学舎新聞35号の文芸欄に掲載した川柳の中で、高戸直幸さんのコース名が間違っていました。健康管理ではなく生活情報です。

またかわら版4号で掲載した久保節子さんの詩が途中で切れていましたので、改めて掲載しました。ご迷惑をおかけしまして大変申し訳ございませんでした。